

事務事業名	臨海自然教室推進事業				担当	教育委員会 自然教育センター	
政策名	B	学びと歴史・文化が豊かな心を育むまちづくり			電話番号	0285-83-1277	
施策名	2	小・中学校の教育の充実			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業		
基本事業名					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ	
法令根拠	栃木県立とちぎ海浜自然の家条例、同管理規則					<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 H4 年度～）	
予算科目	1. 一般会計	10. 教育費	4. 社会教育費	9. 自然教育センター費	<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）		
事業概要	<p>普段海に接することの少ない栃木県の子どもたちに、海辺で宿泊しながら海の自然や海にかかわる産業・文化などに触れさせることを主要目的としている。市内小学校の5年生を対象として、県が指定した時期に、栃木県立「とちぎ海浜自然の家」を利用し宿泊学習を実施している。自然教育センターでは、バスの手配や利用経費の一部の支払い事務を行っている。なお、県の「とちぎ未来開拓プログラム」において、平成21年度をもって、とちぎ海浜自然の家送迎バス借上料の補助が廃止された。</p> <p>子どもたちにとって、海での宿泊体験学習は大変貴重なものであり有効な事業であるため、今後も本事業を継続実施していきたい。（平成21年度分から自然教室推進事業のマネージメントシートから分離して作成）</p>						

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 26年度実績 「とちぎ海浜自然の家」にて2泊3日の宿泊学習を実施 そのためのバスの手配及び利用経費の一部支払い事務 27年度計画 基本的には、26年度と同じ	⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移							
	名称	単位	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	
	ア 児童入所回数	週	3	4	3	3	3	
	イ							
	ウ							
エ								
オ								
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 市内小学校5年生	⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移							
	名称	単位	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	
	ア 市内小学校5年生の児童数	人	822	802	779	783	785	
	イ							
	ウ							
エ								
オ								
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 海辺の自然の中で様々な体験活動をさせ、心身を鍛える。 集団宿泊生活をさせ、社会性と自立心を養う。	⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移							
	名称	単位	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	
	ア 友だちや先生等とふれあいを深めることができた児童の割合	%	77.8	81.3	86.8	85.8	87.0	
	イ 活動について調べた、準備した児童の割合	%	60.6	68.9	74.2	74.4	75.0	
	ウ							
エ								
オ								
④結果（どんな結果（上位施策）に結びつけるのか） 知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童を育成する。 【より適切に事業を評価できるようにするため、名称を平成22年度より新たに設定し直した。】	⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移							
	名称	単位	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	
	ア 臨海自然教室の活動に満足した児童の割合	%	93.9	93.6	93.6	96.8	97.0	
	イ							
	ウ							
エ								
オ								
(2) 総事業費の推移		単位	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	
投入量	事業費	財源内訳	千円	0	0	0	0	0
		国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	2,625	2,631	2,562	4,011	0	
	事業費計(A)	千円	2,625	2,631	2,562	4,011	0	
	人件費	正規職員従事人数	人	4	4	4	4	0
		延べ業務時間	時間	97	103	97	97	0
		人件費計(B)	千円	411	433	394	409	0
トータルコスト(A)+(B)		千円	3,036	3,064	2,956	4,420	0	

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等

①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	県は、平成4年に「とちぎ海浜自然の家」を設置し、小学校5年生での2泊3日の宿泊学習を推進している。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	県の「とちぎ未来開拓プログラム」において、平成21年度をもって、これまでの県補助（とちぎ海浜自然の家送迎バス借上料の1/4補助）が廃止された。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	ほとんどの児童が、臨海自然教室を楽しみにしている。

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 未来を担う子どもたちの健全育成を目的とする本事業は、市の施策に直結し、政策体系と結びついている。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 市内小学校5年生が対象で、小学校の教育課程に位置づけされた事業であり、公共関与は妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある とちぎ海浜自然の家利用の「臨海自然教室」については、市内小学校5年生を対象としている。県の海浜自然の家での宿泊学習は、体験活動による教育効果が得られる。臨海自然教室では、海ならではの特色ある体験活動が行われている。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 児童にとって、自然や活動指導員とのふれあいを深めたり、様々な活動を通じて自立心や社会性を高めたりする重要な機会となっている。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 現在の教育課程に位置づけされている、心の教育・生きる力の育成のための効果的な実践の場である本事業が廃止されることは、心豊かで人間性あふれる人づくりを推進する教育機会を減らしてしまうことになる。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある バス借上料及び最低限の利用経費の一部を負担しているのみである。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか？ (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある とちぎ海浜自然の家・入校との連絡、プログラム調整会議への出席、児童送迎バス借上事務及び交付金等の支払い事務であり、必要最低限の時間数で行っている。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 利用者が食事代を負担している。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し(<input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							